はじめに

「主語がちゃんと書いてないから、どんどんわけわかんなくなる」→「だから古文なんかキライ」。
そう思ってしまう前に、こう考えてみたことはないですか？
「どうして昔の人たちは、主語が書いていない文章を見て、ちゃんと理解できていたのだろう？」
そうです、昔の人たちは無意識でしょうが、「何か」に注目して読んでいるのです。その「何か」を知れば、現代人の私たちだって、昔の人たちと同じように古文が読める！ということですよ。
本講座では、その「何か」＝「読解のルール」を中心に解説していき、さらに「古文常識」や「作品常識」などにも触れていきます。

実際の入試問題から、様々なジャンルの文章を選んで作成しており、もちろん近世の作品にも取り組みます。「主語把握方法」、「会話文中の主語判断法」などの「読解のルール」を掴んで、昔の人たちがどんな所に目をつけて読んでいたのか、辞書なしで読んでいたその時代の人たちの世界を、全十回で体感してください！

なお、「文法」はできているものとして授業を行います。「文法が苦手だ」という人は、先に「古文～文法編～」の授業を受講してから、この講座を受講することをオススメします。一見、遠回りのように思うかもしれませんが、文法をきっちりやるほうが、読解する上で結局近道となりますヨ。

それでは、初見の文章を自力で読めるように、一緒にやっていきましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

各講の動画を見る前に、必ず該当の講の予習をしてください。ノートに本文を写すとか、そういう作業は一切不要です。テキストに直接書き込んで大丈夫なので、15〜20分くらいで、辞書などは使わずに自力で解きましょう。それさえ守ってくれたら、**第一講**はどんなやり方でもかまいませんので、自分なりの解き方でまずやってみてください。初めてだから、まったくわからなくても、「なんとなく」でもかまいません。なにか解答を選んでみてください。第二講以降は前回までに学習したことを踏まえて、予習をしましょう。第一講の時にはとりあえずやってみたという人も、回数を重ねる度に、どんどん自力で自信をもって解けるようになっていくはずですヨ！

予習が終われば、なるべく時間を空けずに該当講の動画を見てください。時間が経ってしまうと、せっかく予習をしたのに、どんな話だったか、どうしてその解答を選んだのか忘れてしまうので、覚えている間に見ることが重要です。

あらかじめ板書している本文に、書き込みをしながら授業を進めていきます。私が黒板に書いていくことを、みなさんもテキストの本文に同じように（色は一色でも何色でも可）どんどん書き込んでください。こちらも回数を重ねると、予習の段階で、自分で先に本文中に必要な印や記号がどんどん付けられるようになるはずです。そうなれば、自分が予習の段階で書いたものと、私が書いているものが同じかどうかという目線で動画を見るようにしてください。

講義を見終えたら、復習を必ずしましょう。「復習＝問題を解きなおす」のではなく、

①講義の中でお伝えした「読解のルール」（「古文常識」「作品常識」を含む）を覚え込むこと、
②本文に付けた印や記号が、どういう根拠で付けたものかを再確認すること、
③各講の解答に掲載してある〔重要単語〕（特に太字）を覚えること、

の３点を重点的にしてください。そのうえで、間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰していきましょう。文法の講義同様、復習が終われば後ろにある「復習問題」も解いてくださいネ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　『大和物語』（歌物語）…… p. 4
第二講　『無名草子』（物語評論）…… p. 10
第三講　『宇治拾遺物語』（説話）…… p. 16
第四講　『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）…… p. 22
第五講　『発心集』（仏教説話）…… p. 28
第六講　『曾我物語』（軍記物語）…… p. 34
第七講　『大鏡』（歴史物語）…… p. 41
第八講　『源氏物語』（作り物語）…… p. 48
第九講　『正徹物語』（歌論書）…… p. 54
第十講　『本朝桜陰比事』（近世小説）…… p. 62

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講『大和物語』（歌物語）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

帝、狩（かり）いとかしこく好みたまひけり。[1]陸奥、磐手（いはて）の郡（こほり）より奉（たてまつ）れる御鷹（たか）、世になくかしこかりければ、[2]になうおぼして御手鷹（てたか）にしたまひけり。名をば磐手となむつけたまへり［　　］。それを、[3]かの道に心ありて、あづかり仕（つか）うまつりける大納言（だいなごん）にあづけたまへりける。夜昼（よるひる）、これをあづかりて、とりかひたまふほどに、いかがしたまひけむ、そらしたまひてけり。心（こころ）ぎもをまどはしてもとむるに、さらにえ見いでず。山々に人をやりつつもとめさすれど、さらになし。[4]みづからも深き山に入りて、まどひ歩（あり）きたまへどかひもなし。[5]このことを奏（そう）せで、しばしもあるべけれど、二三日にあげず御覧ぜぬ日なし。いかがせむとて、内（うち）にまゐりて、御鷹（たか）のうせたるよし奏したまふ時に、帝（みかど）、[6]もののたまはせず。聞しめしつけぬにやあらむとて、また奏したまふに、[7]おもてをのみまもらせたまうて、ものものたまはず。たいだいしとおぼしたるなりけりと、われにもあらぬ心地（ここち）して、かしこまりていますかりて、「この御鷹の、もとむるに、侍（はべ）らぬことを、いかさまにかしはべらむ。などかおほせごともたまはぬ」と奏したまふ時に、帝、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

8 いはで思ふぞいふにまされる

とのたまひけり。かくのみのたまはせて、こと事（ごと）ものたまはざりけり。御心にいといふかひなく、惜（を）しくおぼさるるになむありける。これをなむ、世の中の人、本（もと）をばとかくつけける。もとはかくのみなむありける。

（『大和物語』）

問一　傍線部１「陸奥」の読みは何か。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　りくのおく　②　りくおう　③　りくおく　④　りくぜん　⑤　みちのく

問二　傍線部２「になうおぼして」について、次のア・イの設問に答えよ。

ア　「おぼし」たのは誰か。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　磐手の郡の人　②　鷹を探した人　③　大納言　④　作者　⑤　帝

イ　「おぼし」た内容について、次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　自分の肩にとまらせたい　②　どうしても差し上げたい　③　気持ちが中途半端だ
④　この上もなく大事　⑤　責任重大だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　空欄には次のどの活用語が入るか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　けら　②　けり　③　ける　④　けれ　⑤　けよ

問四　傍線部３「かの道」とは、どのような道か。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　葬送の儀礼　②　管弦の遊び　③　鷹の調練　④　狩猟　⑤　和歌

問五　傍線部４「みづから」とは誰をさすか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　磐手の郡の人　②　使いの者　③　大納言
④　作者　⑤　帝

問六　傍線部５「このこと」とはどのようなことか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　鷹を逃がしてしまったこと
②　鷹をあずかっていること
③　音楽の趣味があること
④　深い山で迷ったこと
⑤　山に人をやったこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部６「ものものたまはせず」とあるが、どうしてか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　言わないでもすべてわかっていたから
②　鷹がいなくなって落胆したから
③　鷹が死んでしまって悲しいから
④　言い訳を聞きたくなかったから
⑤　山歩きで疲れてしまったから

問八　傍線部７「おもてをのみまもらせたまう」の主語は誰か。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　磐手の郡の人　②　鷹を探した人　③　大納言　④　作者　⑤　帝

問九　傍線部８「いはで思ふぞいふにまされる」は、和歌としては欠如した部分がある。次の①〜⑤は、その欠如した部分について言ったものである。次のうちから適当でないものを一つ選べ。

①　初句と二句と三句　②　和歌の下の句　③　和歌の上句　④　「本（もと）」　⑤　五七五

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　本文について述べた次の①〜⑤について、最も内容にふさわしいものを一つ選べ。

①　帝の心について後の人があれこれと噂(うわさ)するのは、帝が何も述べなかったからである。

②　帝と家臣との心の交流を描いたこの作品は、ハッピーエンドで終わる。

③　帝は、言わないで思っているのは、言うに勝っていると考えている。

④　帝は、鷹をかわいがりすぎていたので、臣下をひどく叱責(しっせき)した。

⑤　帝は、鷹を愛するあまりに、深い山奥を探し求めた。

問十一　『大和物語』と同じような平安時代の歌物語はどれか。次の①〜⑤のうちから最適なものを一つ選べ。

①　十六夜日記　②　伊勢物語　③　平家物語　④　今昔物語　⑤　古事記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　『大和物語』（歌物語）

①　「陸奥」の読みは何か。次の中から最適なものを一つ選べ。

ア　りくのおく　イ　みちのく　ウ　りくおく　エ　りくぜん　オ　りくおう

②　平安時代の歌物語を次の中から全て選び、成立順で答えよ。

ア　平中物語　イ　伊勢物語　ウ　平家物語　エ　平治物語　オ　大和物語

③　次の中から仲間外れのものを一つ選べ。

ア　初句と二句と三句　イ　末　ウ　和歌の上の句　エ　本　オ　五七五

④　「になし」の意味を次の中から選べ。

ア　どうしても　イ　中途半端だ　ウ　他に比べる物がない　エ　荷をかつぐ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講

〔解答〕

問一 ⑤　問二 ア ⑤　イ ④　問三 ③　問四 ③　問五 ③
問六 ①　問七 ②　問八 ⑤　問九 ②　問十 ③　問十一 ②

〔現代語訳〕

天皇が、狩をとても好みなさっていた。陸奥、磐手郡から献上された鷹が、他ではみつけられないほど賢かったので、（天皇が）この上もなく大事にお思いなさって御手鷹にしなさった。（天皇はその鷹に）名前を「磐手」とつけなさった。その鷹を、鷹の調練に秀でていて、責任をもって引き受け申し上げていた大納言に（天皇は）預けなさった。夜も昼も、鷹を預かって、飼い養っていらっしゃるうちに、どうなさったのだろうか、（その鷹を）逃がしなさってしまった。心を乱しうろたえて捜し求めるものの、全く見つからない。山々に人をやって捜し求めさせたが、全く見つからない。自分自身（＝大納言）も深い山に入って、さまよい歩きなさるがそのかいがない。このこと（＝天皇の鷹を逃がしてしまったこと）を（天皇に）申し上げないで、しばらくはいられるだろうけど、間をおかずしばしば（いらっしゃって、天皇はこの鷹を）御覧にならない日はない。どうしようかと思って、宮中（＝天皇の所）に参上して、天皇の鷹がいなくなったことを（天皇に）申し上げなさった時に、天皇は、何もおっしゃらない。お聞きにならなかったのだろうかと思って、再び申し上げなさると、（天皇は大納言の）顔をじっとお見つめになるばかりで、何もおっしゃらない。もってのほかだとお思いになっているのだなあと、（大納言は）茫然自失の気持ちになって、恐れ多く思っていらっしゃって、「この鷹が、探しても、おりませんことを、どのようにいたしましょうか。なぜ何もおっしゃってくださらないのか」と申し上げなさったところ、天皇は、

「言わないで思っている方が言葉に出して言うよりも（気持ちが）まさっている」

とおっしゃった。（天皇は）この言葉だけをおっしゃって、他のことは何もおっしゃらなかった。そのお心にどうしようもなく、残念にお思いになっているのであった。これを、世間の人は、上の句をあれこれと付けた。元来はこの言葉だけだったのだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈重要単語〉　※「敬語」の「重要単語」は文法編で既出のため、省いています（第二講以降も同様）

○になし【二無し】…**二つとない**。比べるものがない。すばらしい。

○うち【内】…①**宮中**。内裏（だいり）。②**天皇**。主上。

○うす【失す】…①**なくなる**。消え去る。②**死ぬ**。

※「内部」「家の中」「心の中」などもあるが右記２点が大事。

○おもて【面】…①**顔**。②**面目**。③仮面。

○まもる【守る（＝目守る）】…①**じっと見つめる**。②**見定める**。③警戒する。④守護する。

○たいだいし【怠怠し】…**不都合だ**。**もってのほかだ**。

○いふかひなし【言ふ甲斐無し】…①**言っても何にもならない**。②**とりあげて言うほどの価値のない**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第一講　『大和物語』（歌物語）

〔解説〕

①　「**陸奥**」の読みは「**みちのく**」。今の東北地方のあたり。よって、正解はイ。

②　平安時代の「**歌物語**」は、『**伊勢→大和→平中**』の成立順とセットで作品名も覚える。よって、正解はイ→オ→ア。

③　イの「**末**（すゑ）」は「**和歌の下の句**」のこと。他は全て「和歌の上の句」。よって、正解はイ。

④　「になし」は漢字で「**二無し**」。二つとないこと。よって、正解はウ。

〔解答〕

①　イ　②　イ→オ→ア　③　イ　④　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。